

同推協だより

No.132

2022年 12月発行
神前地区同和教育推進協議会
Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

普段「おかしいなあ」「どうしてかなあ」と思っていること

バスケットボール女子日本代表のオコエ桃仁花（もにか）選手が2022年9月8日、人種差別メッセージをめぐる問題に、改めて言及し、エールに感謝を明らかにしました。

日本人の母とナイジェリア人の父を持つ桃仁花選手。兄は、プロ野球楽天イーグルスのオコエ瑠偉選手です。

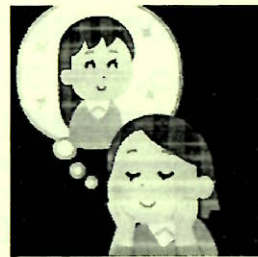
桃仁花選手は7月、SNSのDM（ダイレクトメール）のスクリーンショットを公開しました。そこには、「黒人のくせに・・・。」といった言葉や「アフリカ人とは結婚できない。」等の誹謗中傷がつづられていました。桃仁花選手は、このDMに対し「もう心が麻痺するくらい慣れたよ。」とコメントしていました。しかし、桃仁花選手は、8月に改めてSNSを更新し、「お父さんとお母さんが出会い、今私はここにいる。誰に何を言われようとも、私は愛される価値がある。」とつづり、「目の前のあなたも横のあなたも誰かの大切な人。言葉を大切に。心を大切に。」と誹謗中傷の危険性を訴えました。桃仁花選手の「心が麻痺するくらい」という言葉に、彼女がどれほど苦しんだかが分かります。その彼女の最後の言葉「私は愛される価値がある。」「みんな誰かの大切な人。」「言葉を大切に。心を大切に。」が、私にはすごくいい言葉だと思いました。



萩 佳成さん（神前小学校PTA）

8月の「広報よっかいち」で、性の多様性についての特集が挙げられていました。

自らの性に違和感を持つ当事者の想いが記載されており、すごく悩み苦しんでいたことがよく表されていました。特集の中には、その事実気づいた方の話も載っており、「彼らは、周囲に話せない環境の中で苦しんでいた。」と話され、私自身悲しい気持ちになりました。ただ、彼らがそんなに話しぶらいという環境を生み出していた原因が、私にもあったのだろうと気づかされる話でもありました。



「広報よっかいち」には、「誰が作ったのかわからない『普通』の枠に収まっていることが『当たり前』の世の中。世の中にはいろいろな人がいて、一人ひとり違うのに『普通』の枠から出た人に、悲しい言葉をぶつけるなど、差別や偏見があるのも現実です。大切なのは、そんな課題に対して『自分には関係ない。』と思わないこと。」

と、書いてありました。

つい「普通は・・・。」と、多数派の意見に併せそうな自分に、改めて気づかされた特集でした。

林崎美佳さん（一般啓発委員）

（延期した、短縮した）夏の啓発委員研修を終えて



夏のコロナ感染症の拡大で延期されていた「啓発委員研修」が2回に短縮されて開催されました。1回目は10月6日（木）、7日（金）、2回目が10月13日（木）、14日（金）の2週にわたり、寺方児童集会所と人権プラザ神前、神前地区市民センターにおいて分散会方式で行いました。



1日目は「人権カルタ」を中心に、気になる札のことばを見つけながら自分の本音を語ろうということで行われました。

- 親切心で差別（偏見）を伝えてもらい、自分の物にしてしまっていました。
- 「差別だけせんといってくれたら、それだけでいい。」という当事者の声。自分が差別する側であると自覚するのに数年の年月がかかりました。
- 「懇談会に行って勉強しなきゃ。」から「懇談会は自分のためになる。」に変わっていきました。

2日目は「私のものさし」で、自分の中の人権意識について参加者と語り合いました。

- 無関心な人が増えています。これがずっと差別を残していくことにつながります。無関心な自分にすら気づいていません。様々な差別にアンテナを立てることが大切だと思いました。
- 私たち大人の言動で子ども達が線引きを生み出します。差別をなくすため、力をつけるためと思っていたことが結果的に違いのないところに違いを作ってしまったと気づきました。
- 差別の当事者は差別されている人ではなく、差別している私こそが当事者なのだとことが確かめられました。
- 部落差別をなくすにはどんな研修をすべきか。初めて会う方とも安心して議論できるのは、私の人権を尊重していただいているからだと思えました。
- 啓発研修をしていく中で自分のこと（気持ち）が整理されていくのを感じました。
- 自分の問題として差別社会を容認しないよう行動したいと思いました。

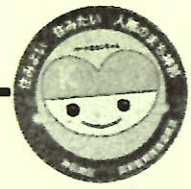
西部ブロック人権講演会に参加して



11月13日（日）に四日市市西部ブロック人権同和教育推進連絡協議会人権講演会が、桜小学校体育館で開催されました。迫文代さんの「心も若返る50代から挑む新たな人生」という題目での講演でした。

- 迫さんが「なるほどザ・ワールド」にリポーターとして出演し、世界60カ国に行かれたことは、その時代に母とテレビを見ていたので知っていました。その経験から各国の「食」を通して、各国の文化の違いを紹介していただき、違いを認めることの大切さを学ばしていただけたような気がしました。
- 50才を超え、この先の人生についていろいろと考えていますが、講師のご経験やお考えから、良いインスピレーションをいただきました。良いお話を良い機会に聞くことができました。ありがとうございました。

「カンちゃん」のなかまを大募集!



たくさん応募してね!

神前地区同推協のイメージキャラクターである「カンちゃん」が誕生してはや10年以上が経ちました。今回、「カンちゃん」と一緒に活動するなかま(新しいキャラクター)を募集いたします。みなさま、ふるってご応募ください。

1 募集内容

イメージキャラクター「カンちゃん」のなかま(新しいキャラクター)のイラストおよび愛称

2 応募方法

○応募用紙 A4サイズ

※応募用紙は、同推協だよりと一緒に配付します。また、神前地区市民センター、人権プラザ神前、神前こども園、神前小学校に用意してあります。

○作成要領

「カンちゃん」のなかまのキャラクターのイラスト、愛称、そしてイラストや愛称の簡単な説明を記入し、併せて、住所または所属、名前、連絡先(電話番号)を記入してください。
※キャラクターの愛称については、キャラクター決定後、変更する場合がありますので、ご承知おきください。

○締め切り 2023年 1月 13日(金)

・応募用紙を各施設に設置してある応募箱に入れていただくか、神前地区市民センター内同推協団体事務局までお出しください。

3 その他

- ・応募していただいた作品につきましては、返却いたしません。ご了承ください。
- ・何かご質問、ご不明な点があれば、下記の連絡先までお問い合わせください。

神前地区市民センター内同推協団体事務局 担当 山本

Tel/Fax: 059-327-1501 E-mail: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

啓発委員研修「水平社博物館の見学、西光寺での講演会」



2023年度に、神前同推協は設立50周年を迎えます。そこで、今年の啓発委員研修(フィールドワーク)は、初心に返ることも必要と考え、「水平社博物館」を見学し、西光寺の住職である清原隆宣氏の講演を伺うこととしました。11月20日(日)、15名の参加で出発しました。

・「どこで生まれたか、何に生まれたかではなく、人間として生まれてきたということに感謝すること。このことを考えれば差別する理由はなくなる。」当然のことを改めて知らせてもらいました。

- ・「あるがままに、そのまま認め合う」印象に残った言葉です。人権を難しくしているのは自分自身です。自分の想いを正直に語り、人の意見もきちんと聞く耳を持つことだと思います。
- ・「差別は人が作るものだから人がなくすることができる。人が人として誰もが尊ばれる社会を作っていくことは、みんなが幸せに生きていけることになる。」子どもたちに聞かせたいお話でした。



人権カルタコーナー 今月の1枚!

「知ってるよ。」「分かってるよ。」という人は、行動も伴っているのでしょうか。

どんな知識でも、その知識を活かし、活用しなければ、「知っている」ということにはならないと思います。

「同和問題は知っているよ。」じゃ、知ったことをどのように生かしているのですか。ぜひ自分に問い返してみてください。

行動しましょう。まずは、懇談会に参加しましょう。懇談会に参加して自分のことを話しましょう。他の人の話すことを真剣に聞きましょう。そのような行動することが、「知っている」ことの一歩の証明だと思います。



理屈では分かったつもりが身に付かず

人権カルタとは?

2001年、同推協の一般公募啓発委員研修会で人権標語を作りました。その標語を「かるたを作ろうチーム」を募ってカルタに仕上げました。この啓発かるたは、

- ① 啓発委員の役割、
- ② 差別が表れる場面を描いたもの、等

人権・同和問題の解決を願って、「みんなで考え行動しよう。」と呼びかけています。

今月のコラム

川森湧子さん(一般啓発委員)

差別や偏見は、思い込みや先入観から持ってしまう。気にしていないとすぐに身につけてしまいます。

私の中の先入観は、「差別される。」ということです。そのことからなかなか解き放されることなく生きてきました。しかし、「差別する。」という自分からも解き放されることなしには、「人間として恥ずかしいこと。」と最近思うようになりました。

私の中では両方の自分が毎日戦っているのです。「あっ、また・・・」「あっ、しまった!」「あっ、やらかした。」の繰り返し。

でも平均寿命とやらにはあと少しあるから、そんな自分と向き合って生きていきます。

研修啓発委員の今後の予定 啓発委員を中心に、次のような活動をしています。

(コロナ感染症の状況で延期、中止になるかもしれません。ご了承ください。)

同推協のつどい 令和5年2月5日(日)

来年度の神前同推協発足50周年を前に、例年の本部や各地区団体の取り組み状況の報告以外に、「パネルディスカッション」を計画しております。私たちが活動する糧となるような、今までの50年の歩みの中でのご苦労や喜び、またこれから先への希望や夢をお話しいただきたいと考えております。ぜひご期待いただき、ご参加ください。

同推協啓発委員 募集中

啓発委員になっていただける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して投函してください。(申込用紙は置いてあります。)お電話でも、FAX、メールでも構いません。啓発委員になっていただければ委員研修やイベントに参加したり、同推協の活動内容のお知らせを送らせてもらったりします。

【問合せ先】地区市民センター内 団体事務局 Tel・Fax 327-1501 (受付午後)

Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp